



園だより

～夏休み特集号～

2019年7月19日
中野区立ひがしなかの幼稚園
園長 若槻 容子
<http://nk-hihasinakano-kyoikuin/>

『思い出がいっぱいできる夏休みになりますように』

園長 若槻 容子

子どもたちが大事に世話をしている夏野菜。先日、苗を納入する業者の方が園庭の様子を見て「すごいですね。ここまで育ててくれるとうれしいです」とおしゃっていました。

収穫した野菜は、すぐに切って食べる他、塩ゆで、お味噌汁など、料理人の阿部ちゃん（主事さん）のおかげで様々に楽しんでいます。野菜が苦手な子どもも、友達の実を食べてちょっと口に入れてみたら…。

「あら、おいしい」という笑顔。幼稚園では、みんなで食べるからこそ楽しさも加わって、一層おいしくなるようです。水やりをしながら野菜の青臭さと土の匂いを感じたり、花の変化や実が大きくなっていく生長に気付いたり、キュウリのトゲや小さな虫を発見したり、新鮮な味を味わったりするなど、野菜の栽培はいいことばかりです。

さて、いよいよ夏休みに入ります。「夏と言えば？」と聞かれて、皆さんはどんなことを思い浮かべますか。ある調査（「夏といえばこれと思う風物詩ランキング」）によると「1位：花火」「2位：海水浴・プール」「3位：盆踊り・お祭り」「4位：ピヤガーデン」「5位：高校野球」「6位：セミ」「7位：入道雲」「8位：蚊取り線香」「9位：ひまわり」「10位：風鈴」だそうです。夏は、家族で過ごせる時間があり、行事やイベントが多いので、「夏と言えば？」と聞かれたときに、それぞれの趣味や家族構成などで、思い浮かべることは様々なようです。そう考えると、「我が家だけの（我が家だからできる）（今年こそできる）夏休みの思い出をつくろう」と、プランからワクワクしてみたくになります。遠くに遊びに行くビックプランだけでなく、日常生活の中で「おじいちゃん、おばあちゃんに暑中お見舞いを書こう」「夏野菜カレーを作ろう」「水に顔をつけられるようにしよう」など、夏ならではのことや旬の食べ物、挑戦することなどいろいろと広がります。

幼い頃の心を動かされる体験は、大人になっても何度でも思い出され、心に残ります。童謡「夏の思い出」（作詞：江間章子 作曲：中田喜直）で「夏が来れば思い出す…」という歌詞がありましたが、大人になったときに、子どもの頃の思い出として、様々な場면을思い浮かべられるといいですね。子どもも大人も充実した夏休みになることを願っています。

そして、幼稚園では夏季休業中、ブロック塀の落下対策のフェンス新設工事が行われ、今年の園庭開放は行いません。安全第一で進めてもらいますが、預かり保育等で来園する場合には十分に気を付けてください。

9月には、心も体もいっぱい動かして、さらにたくましくなった子どもたちに会えることを楽しみにしています。

